

3 確かな学力の育成

①施策の展開	小中一貫教育の推進	課名	教育指導課 学務課
②取組概要	学力の向上を図るため、少人数指導やICTを活用した授業、放課後などの学習の場の充実、子どもたちの生活改善などを通して、学ぶ習慣・意欲の向上に努める。		
③構成取組	<ul style="list-style-type: none"> (1) 小中一貫教育推進事業 (2) 少人数教育推進事業 (3) パソコン整備事業 (4) まなびングサポート事業 (5) 学校教材・教具等購入計画指導事務 		

④取組計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) 第一回校園長会において、平成24年度を小中一貫教育の第2ステージの2年目として、「寝屋川12学園構想」をより推進するように趣旨を再確認する。さらに、小中一貫教育推進委員会を開催し、進捗状況を把握するとともに、今後の方向性を模索する。 (2) きめ細かな教科指導を実現するために、<u>少人数教育推進人材</u>₍₄₎を小学校1名、中学校2名の合計48名配置し、任用期間中は、資質向上のため研修を実施する。 (3) 電子黒板の購入計画を立て、入札に向けた仕様書を作成し入札執行の後、小学校6年生の全教室に配備する。 (4) 小中学校が大学生をサポーターとしての登録申請した後、教員補助者として学習指導等に活用する。 (5) 学校配当予算内において、小中学校が申請する学習活動に必要な教材教具について計画的な購入を指導するとともに、事務手続きを進める。
-------	---

<p>⑤取組実績</p>	<p>(1) 平成 23 年度作成の「<u>寝屋川市小中一貫教育アクションプラン</u>₍₅₎」の冊子に基づき、月 1 回、校長会課題別研修部会と指導主事ワーキンググループとで合同会議を開催し、各分野ごとに P D C I サイクルに則り、課題研究に取り組んだ。さらに、小中一貫教育推進委員会にて「小中一貫教育 12 学園構想の現状と今後の方向性」をテーマにして、小中一貫教育の成果と課題について検討を行った。</p> <p><学力> 子どもたち一人ひとりの学習状況を把握し、習熟度別学習等少人数教育によるきめ細かな指導を行う中で、全国学力・学習状況調査では、算数 A 問題では平均正答率が全国平均を上回る結果となるなど成果も見られた。中学校区ごと、課題に応じて学力向上委員会を中心とした取り組みを進め、校長ヒアリングや教頭ヒアリングを通じて進捗状況を確認し、授業研究を活性化させ、低学力層に対するきめ細かな取り組みや、家庭学習づくりに向けた取り組みを進めた。</p> <p><心力> 北河内地区小学校道徳教育研究会に向け、道徳教育推進教員を中心に研修を深め、公開授業を実施するとともに、11 月の研究発表会では、寝屋川市より 5 学年 7 クラス公開授業を行い、府下 900 名の参加を得た。</p> <p><体力> 全校で体力テストを実施するとともに、小学校体育担当教員と中学校体育科教員が中心となる小学校体育研究会と中学校体育研究会とが合同研修会を行い、中学校区ごとの体力状況の分析結果の報告を行った。また、その成果をもとに、寝屋川市の「体力づくり推進計画書」の見直しを図った。</p> <p>(2) 市の少人数推進人材を有効活用し、少人数授業や習熟度別授業を実施することができた。また、放課後や長期休業中を</p>
--------------	--

利用し、教員とともに個に応じた課題を用意するなど、より一層きめ細かな指導で授業内容の定着を図ることができた。

(教員免許保持者 48 人中 40 人)

- (3) 昨年の 5 年生に引き続き、電子黒板を市立小学校 6 年生の全教室(68 クラス)に配置し、わかる授業づくりに取り組んだ。さらに、これまで配備しているパソコンや書画カメラ等の ICT 機器を活用した授業を推進した。

【教員の ICT 活用指導力調査⁽⁶⁾】

学校における教育の情報化の実態等に関する調査 (文部科学省)

<授業中に ICT を活用して指導する能力 (※) >

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
小学校 (全国平均)	74.5% (63.8%)	76.9% (67.4%)	77.0% (70.4%)
中学校 (全国平均)	60.8% (58.6%)	70.7% (60.8%)	70.9% (62.9%)

※ 「わりにできる」「ややできる」の占める割合

- (4) 教育に意欲をもった大学生を小・中学校に派遣し、チームティーチングや少人数指導等、教員の補助を行った。

<活動実績>

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
総活用回数	959 回	934 回	891 回
登録人数	47 人	57 人	44 人
大学数	25 大学	24 大学	18 大学

- (5) 図書費を配当し、学校図書館の蔵書の充実を図った。また、中学校への剣道の防具の配備を完了するとともに、吹奏楽充実に伴う楽器購入費等により新規の楽器購入と楽器の修繕を行った。

< 学校図書館の蔵書冊数 > (各年度 5 月 1 日現在の冊数)			
	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
小 学 校	211,982 冊	203,494 冊	217,165 冊
中 学 校	142,202 冊	130,130 冊	139,053 冊
※ 平成 24 年 5 月 1 日現在、小学校蔵書率 86%、中学校蔵書率 89%を達成			

⑥評価	<p>(1) 小中一貫教育「第 2 ステージ」の 2 年目を迎える中、寝屋川 12 学園構想のもと、各中学校区で目標と課題を共有し、3 校が一体となって取り組みを進めるようになってきている。このことは、本市の小中一貫教育の様々な施策を進める上で、有効な手立てとなっている。今後、全教職員が、学園構想としての意識をさらに高め、めざす子ども像を明確にして教育活動に取り組めるよう学校に対する指導助言を深めていく。</p> <p>< 学力 > 各校の学力向上推進組織が位置づくとともに、中学校区で学力分析を行うなど、学園としての学力向上のための具体的な取り組みが推進されていることは評価できる。ただ、基礎的基本的内容の定着は見られるものの、活用する力の育成など、課題はまだ残されており、学力低位層へのきめ細かな手立てはもちろんであるが、学力中位層のさらなる引き上げのためにも、授業改善や家庭学習の習慣定着に向けた家庭との連携した取り組みが必要である。</p> <p>< 心力 > 北河内地区小学校道德教育研究発表会に向けた取り組み、および石津小学校での研究発表会について、有識者からも高い評価をいただいた。また、前年度の中学校、今年度の小学校の研究発表会を通して、全小中学校が意欲的に道德教育に取り組み始めた。</p> <p>< 体力 > 児童生徒の体力づくりに向け、各学園(中学校区)が、</p>
-----	--

体力向上プラン「児童・生徒体力づくり推進計画」に基づき、体育の授業改善とともに、運動量を多く確保できるように取り組んだ。具体的には、小学校体育担当教員と中学校体育科教員が中心となる小学校体育研究会と中学校体育研究会とが合同研修会を行い、新体力テストの結果を分析して、「体力づくり推進計画書」を見直し、中学校区ごとの体力状況に応じた授業プログラムの実施につなげた。今後は、この計画書をもとに、各中学校区の課題に応じた具体的な取り組みを進める必要がある。

- (2) 少人数教育推進人材の配置により、児童・生徒の実態に応じた授業形態（習熟度別授業など）が可能となり、きめ細かな学習指導に取り組むことで基礎的・基本的な学力の向上が図られた。また、放課後・長期休業中の学習会を通して、授業内容の定着や家庭学習の習慣をつけることが可能となった。
- (3) 小学校5・6年生の各教室に電子黒板が整備され、教材提示や児童の意見発表等における活用等、ICT機器活用率も向上している。また、子どもへの興味・関心を深めることができるとともに、視覚的な支援にもつながり、授業改善という面でも非常に有効なものとなった。また、タブレットパソコンを試験的に導入する中学校区もあるなど、ICT機器を活用した授業づくりに対する教員の意識も向上しており、さらなる機器の導入を求める声も高まってきている。今後、学ぶ意欲や探究心をよりいっそう引き出すことをめざした活用法を研究するとともに、小・中学校での配備のあり方について、研究を深めていく必要がある。
- (4) 大学生が子どもたちに接することにより、学校の活性化に繋がっている。しかし、インターンシップ制度の活用も増え、サポーターを希望する学生が減少しており、人材の確保が課

題である。

- (5) 新学習指導要領に対応した教材等の整備については、学校間で差があり、各校において計画的な購入を行っていく必要がある。また、各学校の蔵書冊数は増加しているものの、蔵書率は伸びず、さらに学校図書の充実とともに有効な活用を図っていく必要がある。